

「NSCの心得」～本多正識先生

しゃべくり話芸大賞の審査員としてお世話になっている本多正識先生はNSC(吉本総合芸能学校)の講師や現在放映のNHK『わろてんか』では現場の漫才指導にあたるなど、長年漫才台本作家、構成作家として活躍なさっている漫才界のプロです。その先生が日頃、NSCの生徒を指導するにあたって心得としている20項目があり、今回3項目を抜粋してご紹介させていただきます。

⑧ニュースは必ず見る。

「世間」の動きに興味のない人間が「世間の人」を笑わすことはできない!!(偏向・捏造にも注意して)常識を知っていないと非常識は作れない!物の見方は一面性に見ない。多面的に!

⑯ネタは必ず書く!

アドリブで出来るほどプロの世界は甘くない。そもそもアドリブとは元ネタよりもおもしろくて、初めてアドリブ!それ以外は意味のないただの“無駄口”

⑱NSCに入っても何の補償も無い事を忘れずに!

最大限居る事が出来るのが、1年間!誤解の無いように1日でも早くひとり立ちして出て行ってもらいたい!これ以上はできない練習を当たり前にする事!売れている人は「特別なことはなにもしません」と必ず言いますが、彼らは周囲から見ればもの凄いの努力をしていることを当たり前のごとどと思っているだけ、言葉をそのままのみにしないように…。(キンコン西野君の2016.12/9 facebook参照)

Pick Up

夏季例会

平成29年7月24日(月) 八軒屋浜～難波まで…

昨年に続き、2017年の夏季例会もなにわクルーズ「船上パーティーwithブリーズ・オブ・デイ」のジャズ演奏を楽しみながら、昨年のルートより少し距離を伸ばし、八軒屋浜～難波のルートを会員の皆様と共に、視覚・聴覚・味覚を存分に味わいました。

浴衣姿でご参加の会員の皆さまのおかげで、「夏祭り」の雰囲気も味わうこともでき、なにわの「夏本番」を皆様と一緒にスタートできたように思います。

川面から望む大阪の街 一人では味わえない協議会の皆様との交流があつてのひとときです。大阪文化、知らない大阪の景観、楽しい仲間との交流…などなど。収穫はたくさんあります!!来年もまたぜひ一緒にしてくださいね。お待ちしております!!



Information

漫才のワークショップでボケとツッコミ体感!

笑学

いじめや学級崩壊など教育現場では様々な問題がありますが、その原因の一つに子どもたちのコミュニケーション能力の不足があると私たちは考えています。伝えたいことをきちんと伝えることが出来るなどコミュニケーションがしっかり取れれば、いじめにつながりそうな出来事も未然に解決されるのではないのでしょうか。そこで、まさにデジタル世代の小学生に対して、関西の演芸文化の真骨頂である漫才からボケとツッコミを体感してもらい、相手の話を聞き、話の展開を読む力や互いの信頼関係を構築していくアナログのコミュニケーション力「笑学」を体験できるワークショップを企画しています。この企画は、私たち関西演芸推進協議会のプロデュースにより、無償にてワークショップを実施しております。

- 主催: NPO法人関西演芸推進協議会
- 協力: 相互タクシー(株)、(株)小学館集英社プロダクション、千房(株)
- 特別協力: (株)JOSHO、前田葉子様
- 対象: 大阪府下の小学校 (募集中※応募校多数の場合は抽選にて決定)



東北復興支援での笑学の様子

関西の上質な演芸文化のために…

上方演芸の文化に触れ、共に育む活動と一緒にしませんか…

関西演芸推進協議会では、関西の演芸を盛り上げ、若手芸人の活躍を支援し、演芸の伝統を守り次世代へと継承していくために様々な活動をしていきたいと思います。

公式ウェブサイト <http://www.walive.org>

編集後記 今回の会報誌は12月から編集をはじめ、師走ということもあり、ご寄稿をお願いしたり、校正を依頼したり、皆様にはお忙しい時期に色々とお手数をおかけしてしまいました。この場を借りて、お詫びし、また、快くお引き受けくださいました方にお礼申し上げます。今号では、「第6回関西演芸しゃべくり話芸大賞」を取り上げさせていただきましたが、本当にたくさんの方にご尽力いただいているということを実感します。また、そんなことを思う中で日々出会う様々なこと…。ここにおいて「仲間」がいるということのありがたさを感じています。多くの方に感謝し、今年度もまた、新しい時間を共有させていただければ幸いです。(編集部・廣田)



NPO法人関西演芸推進協議会 会報誌

笑ライヴ 第25号

walive

「笑」、「商」、SHOW(見せる)=LIVEという意味と、「WA」の意味する平和の「和」、みんなで手を繋ぐ「輪」の思いから名称にしました。

2018年1月

【発行】
NPO法人関西演芸推進協議会 編集部
＜事務局＞
大阪市浪速区難波中1-10-4
千房株式会社内
TEL.06-6633-1430
FAX.06-6633-1435
<http://www.walive.org>
info@walive.org

INFOMATION

いつも当協議会へのご理解、ご協力をいただき、会員の皆様には厚く御礼申し上げます。6回目となりました「道頓堀リバーフェスティバル 第6回関西演芸しゃべくり話芸大賞」も終了し、1年ごとに新しいしゃべくり話芸と出会い、また年々、挑戦者の演者の皆さんの気迫にスタッフとしても熱い気持ちを抱かせていただいております。同時に、協議会の成長を感じさせていただく中、これからも古き伝統を大切に守り、新しい「演芸」も取り入れながら関西の「芸能文化」を育てていきたいとの思いを基に、上方演芸文化の伝承のための活動をサポートしてまいりたいと思います。

CONTENTS

☆2017年度「通常総会」開催	……1頁
☆第6回「関西演芸しゃべくり話芸大賞優勝決定戦」開催	……2頁
☆第6回「関西演芸しゃべくり話芸大賞」振り返って	……3頁
☆夏季例会	……4頁
☆「笑学」のご案内 他	……4頁

Report

2017年度「通常総会」開催

2017年6月20日(月) 於)ホテル日航大阪



総会で挨拶をする小野会長と理事会役員の皆さま



乾杯のご発声は大阪桐蔭高等学校吹奏楽部顧問の梅田先生



今年度の総会は、心齋橋駅直結のホテル日航大阪で開催されました。例年通り、事業報告と今年度の事業予定、予算案の議事が遂行され、また1年の課題に取り組むべく、新しいスタート地点に立つことができました。昨年に続き、協議会運営に協賛いただきました、(株)JOSHO井上社長、前田葉子様には楯の感謝状を贈呈し、感謝の気持ちをお贈りさせていただきました。

第2部では、協議会副会長の桂福団治師匠、弟子の桂福丸さん等による「出囃子と落語」を公演くださいました。師匠による落語を一席愉しませていただいた後に、嘶家によって異なる出囃子は、観客を盛り上げるとても重要な演出であることや、三味線や銅鑼、笛などの楽器による効果音の説明など、とても興味深いお話を聞くこともできました。

第3部の懇親会では、新春例会のオープニングで演奏いただいた大阪桐蔭高等学校吹奏楽部監督の梅田先生の乾杯のご発声で宴席をはじめることができ、ご列席くださいました皆様にも和やかにのご歓談いただいた表情を伺うことができました。

協議会発足から10年。新たな歩みを会員の皆さまとスタートできること、協議会運営へのご厚情に深く感謝いたします。

激戦となった賞レース!は話芸、吹奏楽、お客様400名の共演!

第6回「関西演芸しゃべくり話芸大賞優勝決定戦」開催

2017年10月15日(日)
於)ホテル エルセラーン大阪
エルセラーンホール



今回で第6回となる「関西演芸しゃべくり話芸大賞」は、会場を北区堂島のホテル エルセラーン大阪の「エルセラーンホール」にて10月15日(日)に開催されました。

予選を勝ち抜いてきた10組による激戦は、会場に入る芸人さんの表情からもその真剣さが伝わってくるほどで、この賞レースでの入賞への熱い意気込み熱いを感じました。

審査によると僅差での判定とのこと。見事グランプリを勝ち取ったのは、「きみどり」。準グランプリには「アンビシャス」が選ばれました。

今回の決勝戦では、新しい発想の「ネタ」や、絶妙な「テンポ」や「間」が特徴的だったようにも思います。

審査委員長の澤田隆治先生からは、昨年に続きご好評をいただき、準備から進行に関わったスタッフも満足できる決勝戦となりました。

ゲスト 大阪桐蔭高等学校 吹奏楽部

第6回優勝決定戦のゲスト出演は、大阪桐蔭高等学校吹奏楽部による演奏。梅田先生の軽快な指揮のもと、美しい音色の交響に、数々の賞を受賞されてきた実績を感じることができました。また、そこにサプライズで作曲家の中村泰士先生とのコラボレーション!中村先生作曲の「北酒場」を現役高校生との素晴らしい共演を審査を待つお客様にお楽しみいただきました。



「関西で頑張る芸人に拍手喝采」 岡 力 (放送作家・株式会社エフエムちゅうおう顧問)

昨年9月、自身の恒例行事となっている「第6回関西演芸しゃべくり話芸大賞」予選会の審査員をさせて頂いた。一昨年は、人気お笑いコンビ「フリマ旦那」がグランプリを受賞。そのことで若手芸人の中では認知度が一気に高まり「獲りたい銘柄」となっている。今回は、プロアマ問わず子供から高齢者まで総勢150組以上のお笑いコンビが10月実施の優勝決定戦を目指して挑戦。しかし2日間で全ての審査を行う強行スケジュール、我々にも強靱な精神力が求められる。あまりの寒いネタに睡魔と凍えが襲う事もあれば…実力派の登場で好天に恵まれたりする。余談ではあるが司会を務める園田涼子さんが紹介したコンビよりウケる事も多々ある。予選会は、優勝決定戦と違い頂上を目指し一丸となって登山をしているようである。

この賞レースは、審査シートに所属プロダクション名が記載されていない。また普段、演芸業界に関わっておられない方も審査をおこなうため唯一無二のファイナリストが山頂手前に集結するのが特徴である。熱戦の末に優勝したのは、よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属のお笑いコンビ「きみどり」。「阪急宝塚駅のホームで宝塚音楽学校の女生徒に声をかける準備」というユニークなネタで爆笑の渦に包まれた。受賞後、周辺では「きみどり」の名をよく耳にする。

全ての分野において東京へ一極集中する昨今、関西を活動の場を選び切磋琢磨する芸人をこれからも陰ながら応援していきたい。

■下記、私が制作するテレビ番組に「きみどり」がゲスト出演します。
地域情報番組「ミナタン」(J:COMチャンネル11ch/毎週日曜夕方5時放送/2月放送分)
<https://c.myjcom.jp/jch/p/minatan/>

「自由奔放な予選・・・独自のスタイルでトライして!」 千秋育子 (イラストレーター)

第六回しゃべくり話芸大賞の予選の審査員をさせて頂きました。

二日連続で、152組を真剣に!審査させて頂きますと、普段と見るところが変わるのは当たり前なのですが、ウマイ人の話は、審査と関係なく引き込まれるもので、もう一度聞きたいと思いました。

案外、印象に残るのは、驚きのある人(組)で、舞台上に登場した時は冴えないなあと思っけても、話したすと面白い人で、そういうギャップが大きいと、意外性が得たと感じました。また面白くても同じような人(組)が続くと、だんだん採点も厳しくなってくるもので、熟れた雰囲気があるのにそこそこな場合だと、期待値が高くなったせいか、少々がっかりしてしまったものです。

ただ、面白くない場合でも、完全に面白くないのか、いやそんなことはない、どこか良いところを探すのも楽しいもので、全員がポテンシャルを秘めている!と思って前向きな気持ちで臨みました!しゃべくり話芸という特徴からか、驚くほど独創的だと思ったり、変だと思ふほどのひとや組はあらず、バラエティ豊かでもないと感じたのが、少し気になった点でしょうか。

毎年出場されているひとのなかで、あえてずっと同じスタイルのひとはそのままずっと同じスタイルを貫いて続けて欲しいと思いますし、キッスでも素人のおばちゃんでも、わけのわからない話芸の人も、とにかく、全員舞台上に出ることが出来る、そんな自由奔放な予選の良さがあつたと思います。是非、来年も出場者が多く、しゃべくり話芸の達人をたくさん見出せる大会になりますように。

舞台の裏方として 事務局 石井サト子

しゃべくり話芸大賞がスタートした6年前。事務局スタッフは「しゃべくり話芸」に特化した新しいグランプリの創設に意気揚々と取り組んでいました。予選4分。本選7分。多くの大会が2分前後というなか、その長さにとまどう芸人さんもいたようですが、あえてそこにこだわったのです。

審査員も一流です。なかでも審査委員長の澤田隆治先生の存在感は大きく、その総評もピリリと辛口。「聞いていて辛かった。こんなつらい審査員は経験したことがない」と澤田先生を嘆かせる場面も度々ありました。あれから6年。ようやくその澤田先生から「もう一回聴いてみたいと思った。アドバイスをしてあげたくなる話芸になってきた」と言って頂いたのです。気がつけば、事務局スタッフも大いに成長していました。少ない人数でも各々が少数精鋭で動くための経験とコツをつかんでムダがなくなり、自画自賛ですがササガと感じました。

舞台は演者、観客、裏方の三者で構成されているといいますが、年数を重ねるにつれ、その歯車がいい音をたててまわり始めたように思います。

最近ボランティアの本来の意味を知りました。「相手の方とさりげなくチカラを合わせて、相手がやろうとすることをよりよく前進させること」なのだそうです。

皆さま、これからもどうぞ宜しくお願いします。